



2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

2025年8月8日

証券コード：4022

目 次

1. 事業概要

2. 2026年3月期 第1四半期実績

1. 事業概要

事業概要

会社概要

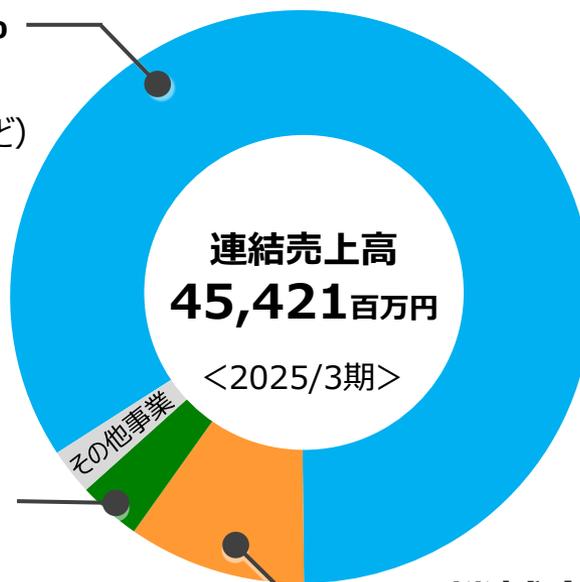
商号	ラサ工業株式会社
本社	東京都千代田区外神田一丁目18番13号
創業	1913（大正2）年5月1日
設立	1918（大正7）年6月26日
従業員数	628名（連結） <2025年3月31日現在>

▶半導体向け高純度リン酸の製造体制



化成品事業 38,168百万円 / 84.0%

- リン系製品
リン酸（一般品、電子工業向け高純度品など）
リン酸塩など
- 凝集剤（水処理用など）
- その他（コンデンサー向け原料、消臭剤など）



電子材料事業 1,574百万円 / 3.5%

- 化合物半導体向け高純度無機素材
（ガリウム、インジウム、赤リン、酸化ホウ素など）
- 放射性ヨウ素吸着剤

機械事業 4,491百万円 / 9.9%

- 建設機械（破碎機、選別機、粉体機器）
- 土木機械（掘進機（上下水道向け））

2. 2026年3月期 第1四半期実績

2026年3月期 第1四半期 決算概要

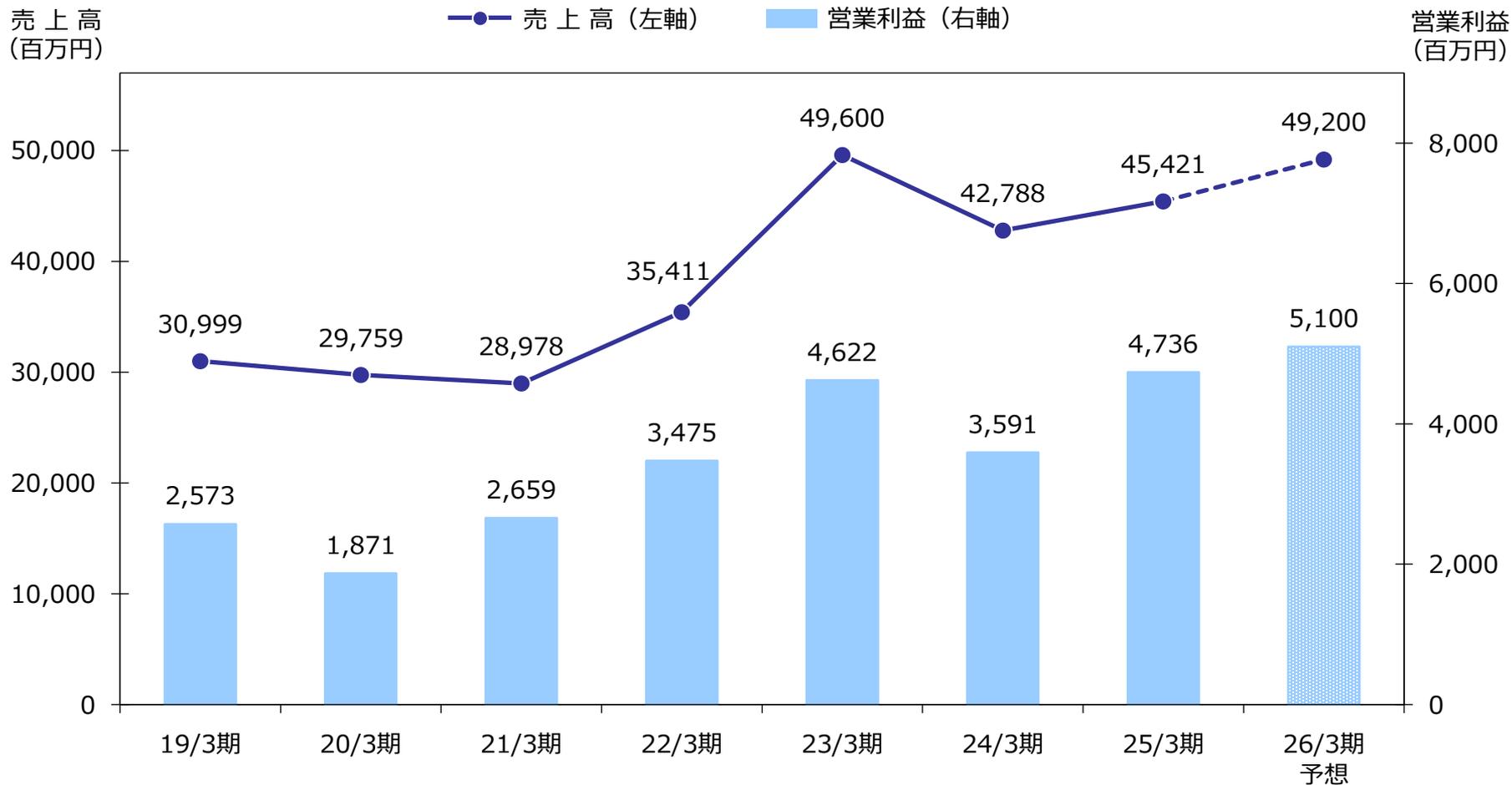
- 売上高は、化成品事業、機械事業、その他事業は減収となり、電子材料事業は増収となったものの、全体では1.5%の減収。
- 営業利益は、半導体関連向け製品が海外向けを中心に堅調に推移したことを主因として、16.7%の増益。

(単位：百万円)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減	前年同期比	第2四半期 予想	通期予想
売上高	10,633	10,472	△ 161	△ 1.5%	24,000	49,200
営業利益	1,129	1,317	188	16.7%	2,500	5,100
経常利益	1,130	1,454	323	28.7%	2,400	4,900
親会社株主に帰属する 四半期純利益	784	1,089	305	38.9%	1,600	3,300
(減価償却費)	469	436	△ 32	△ 7.0%		

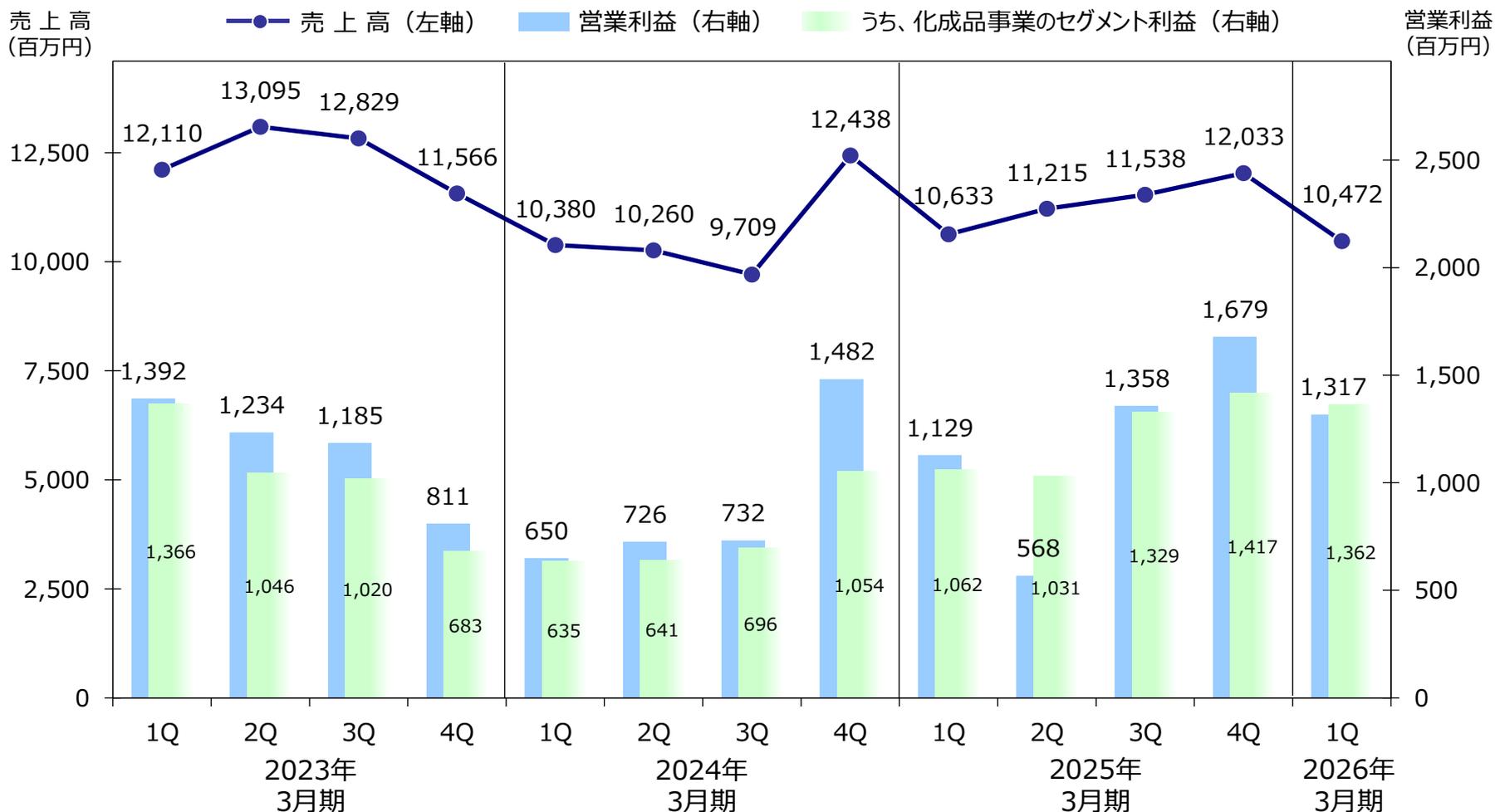
年度業績の推移

売上高と営業利益の推移



四半期業績の推移

四半期売上高と営業利益の推移

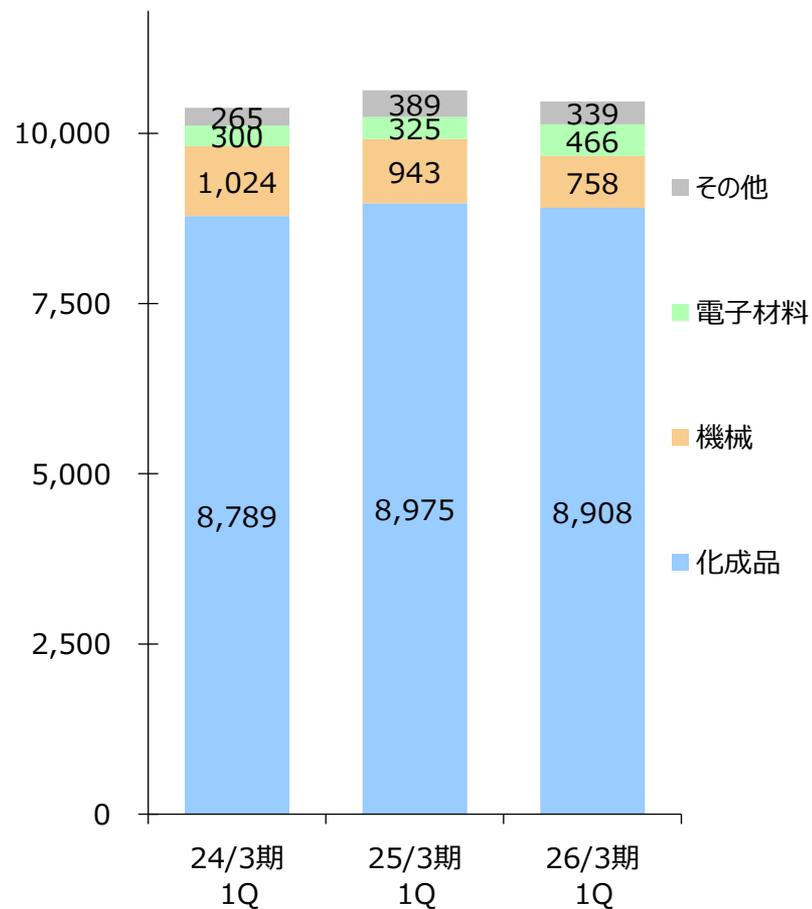


2026年3月期 第1四半期 セグメント別概要（売上高）

売上高の推移

(単位：百万円) (百万円)

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減	前年 同期比
化成品	8,975	8,908	△ 67	△ 0.7%
機械	943	758	△ 185	△ 19.7%
電子材料	325	466	141	43.4%
その他	389	339	△ 50	△ 12.9%
合計	10,633	10,472	△ 161	△ 1.5%

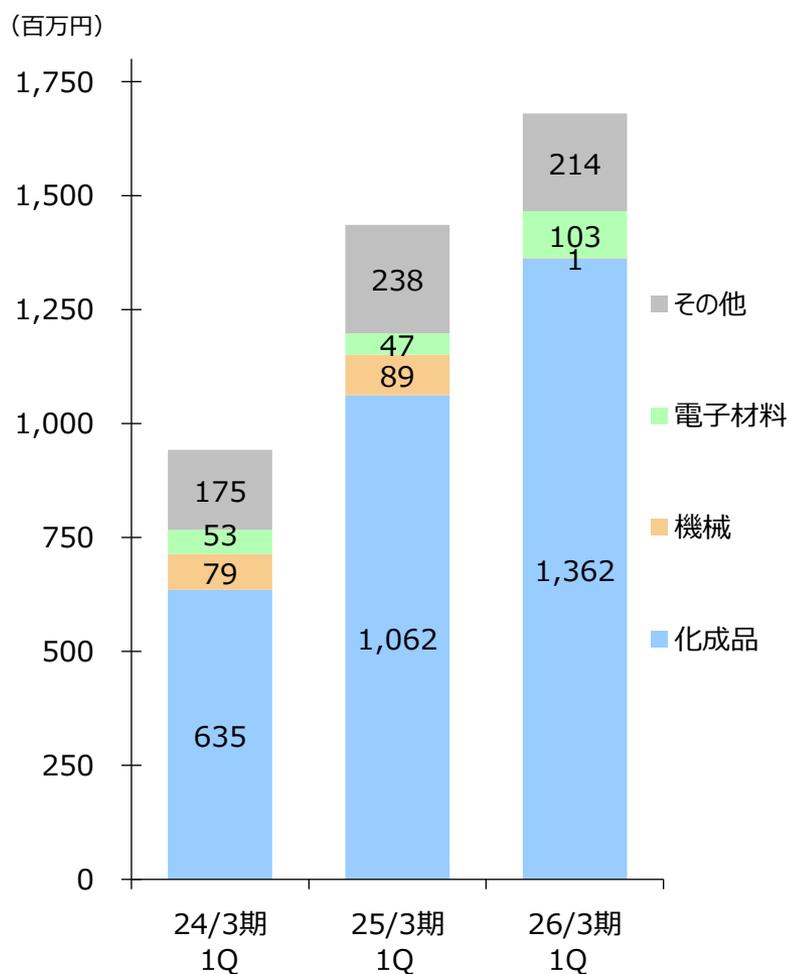


2026年3月期 第1四半期 セグメント別概要（利益）

セグメント利益の推移

(単位：百万円) (百万円)

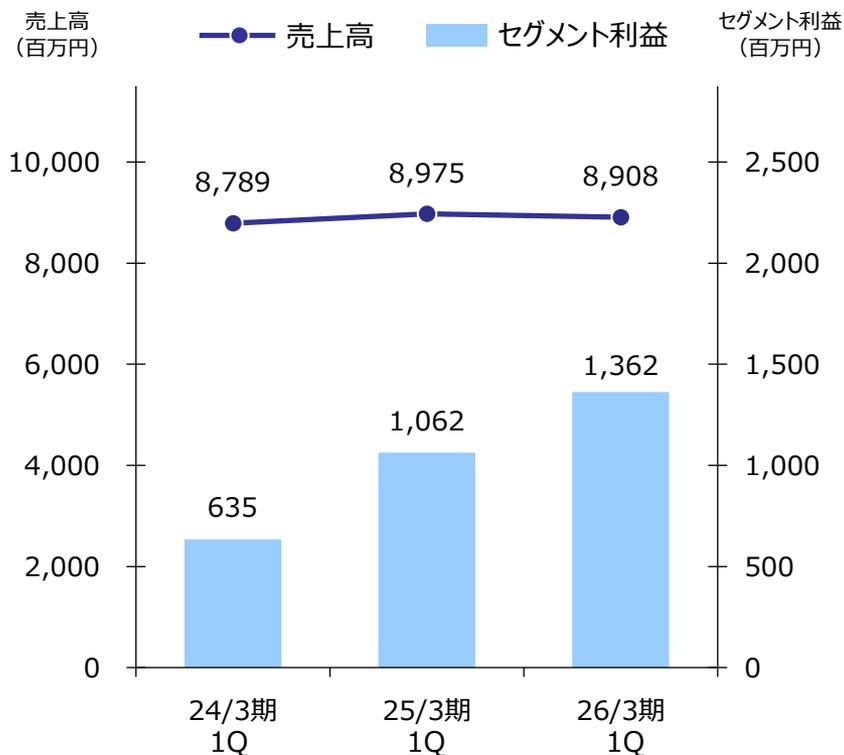
	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減	前年 同期比
化成品	1,062	1,362	300	28.3%
機械	89	1	△ 87	△ 97.9%
電子材料	47	103	55	115.3%
その他	238	214	△ 23	△ 10.0%
(調整額)	△ 309	△ 364	△ 55	-
合計	1,129	1,317	188	16.7%



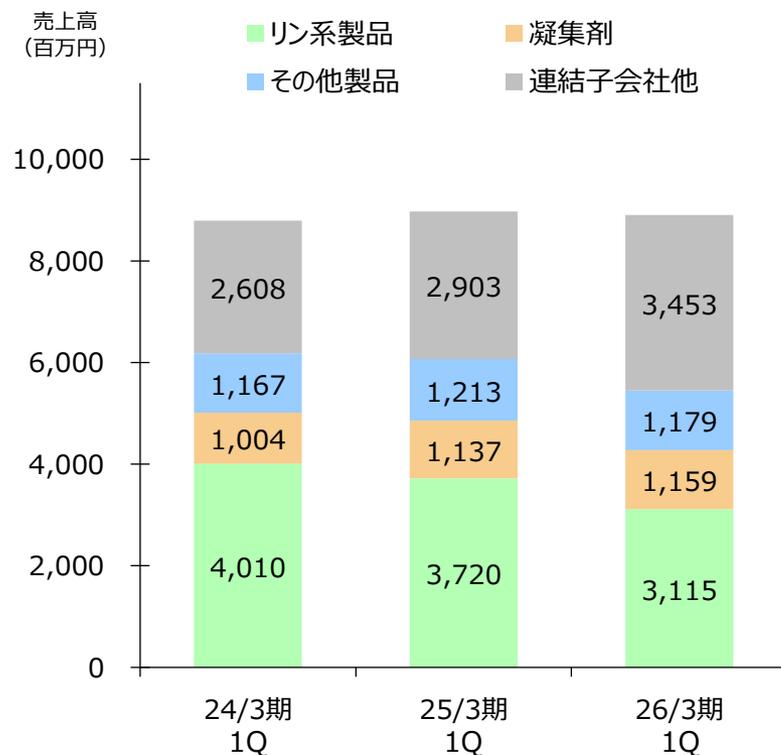
化成品事業

- リン系製品は、半導体向け高純度品は国内向けでは減収となったものの、海外向けが堅調に推移し増収。一方、一般品向けや一部の購入品販売が減収となり、全体では減収。
- 凝集剤は、電子部品のエッチング用途向けは減収となったが、上水道向け製品が堅調に推移し、全体では増収。
- その他製品は、コンデンサー向け原料は減収、消臭剤は増収。
- 営業利益は、半導体向け高純度品が海外向けを中心に堅調に推移したことを主因として、28.3%の増益。

【化成品事業】 売上高とセグメント利益の推移

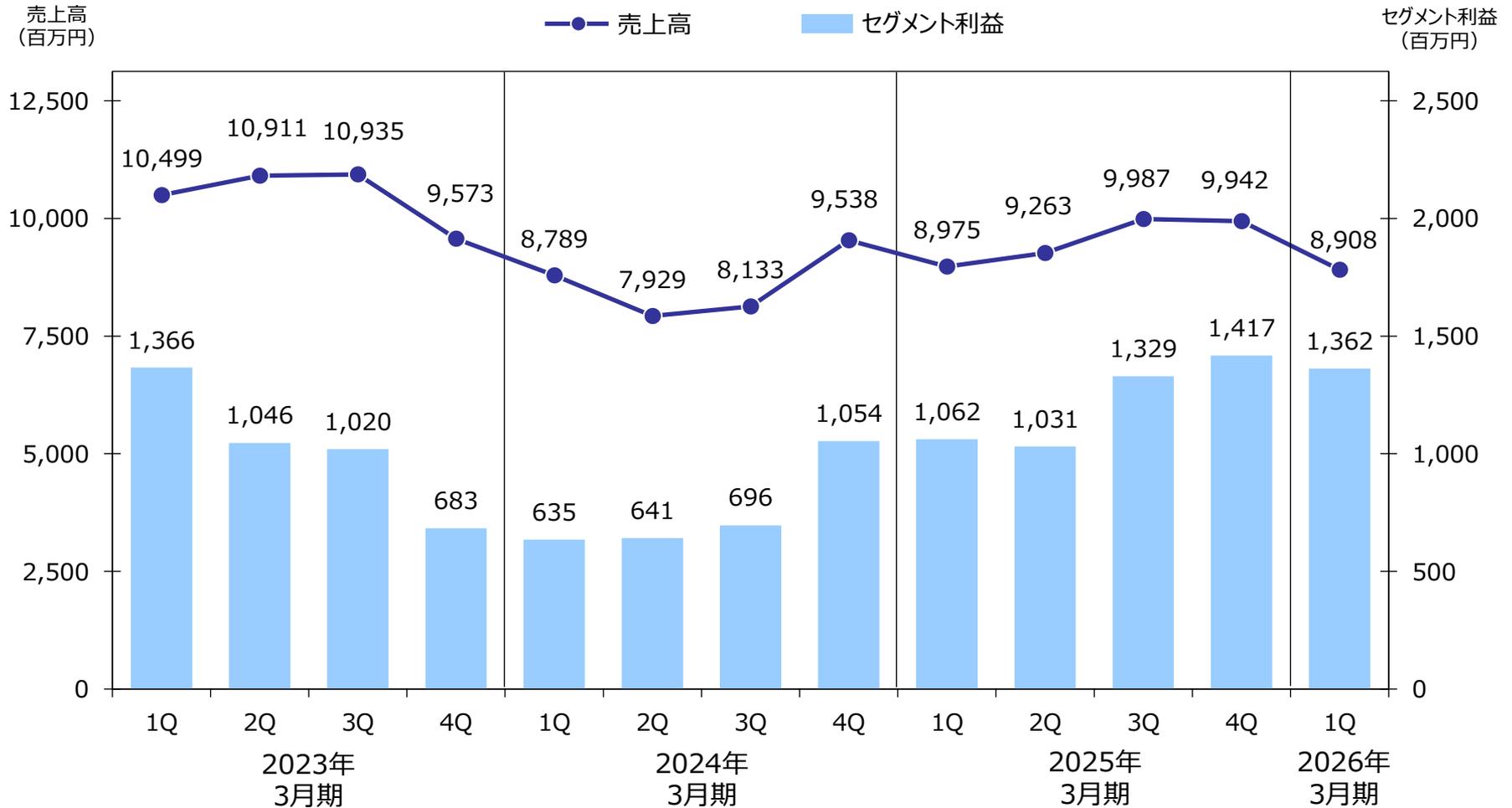


【化成品事業】 製品別売上高の推移



化成品事業（四半期業績）

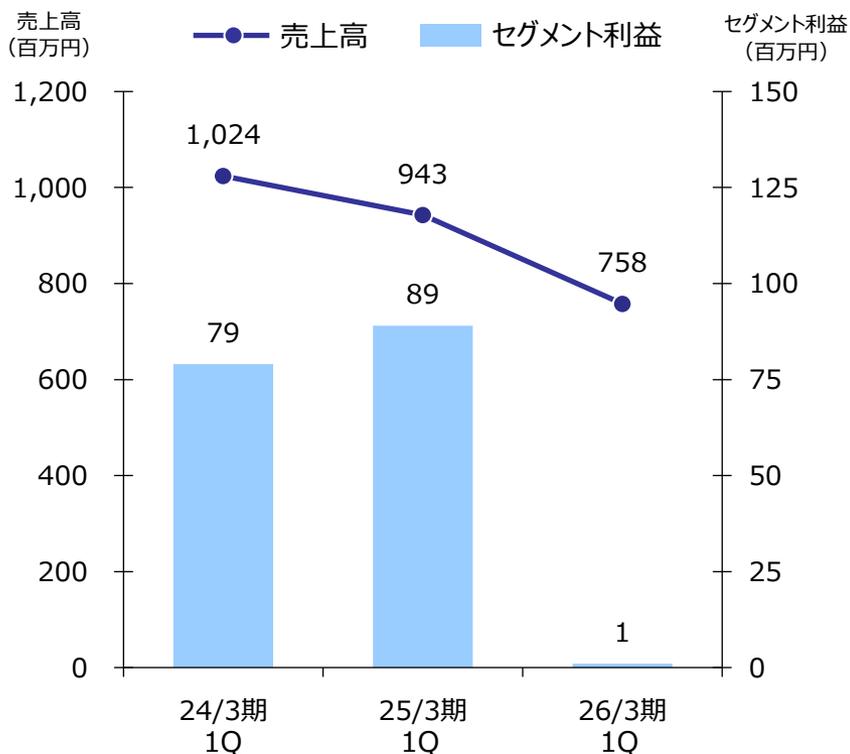
【化成品事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



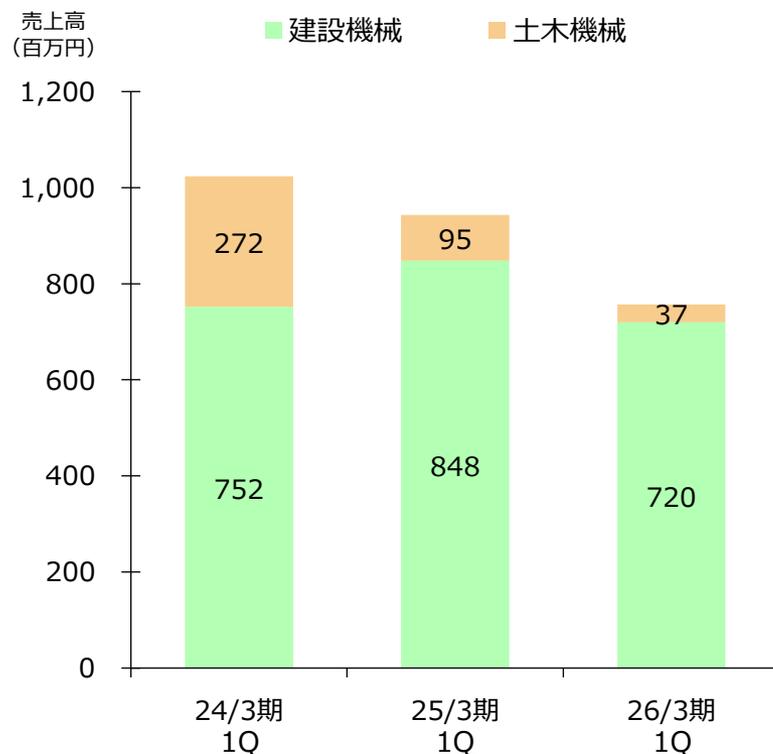
機械事業

- 建設機械は、本体販売や消耗部品販売、プラント販売いずれも減収となり、精密機械加工は増収だが、全体では減収。
- 土木機械は、下水道関連向け掘進機の本体販売が減収となり、レンタル物件は増収となったが、全体では減収。
- 営業利益は、建設機械および土木機械ともに減収となったことから、97.9%の大幅減益。

【機械事業】 売上高とセグメント利益の推移

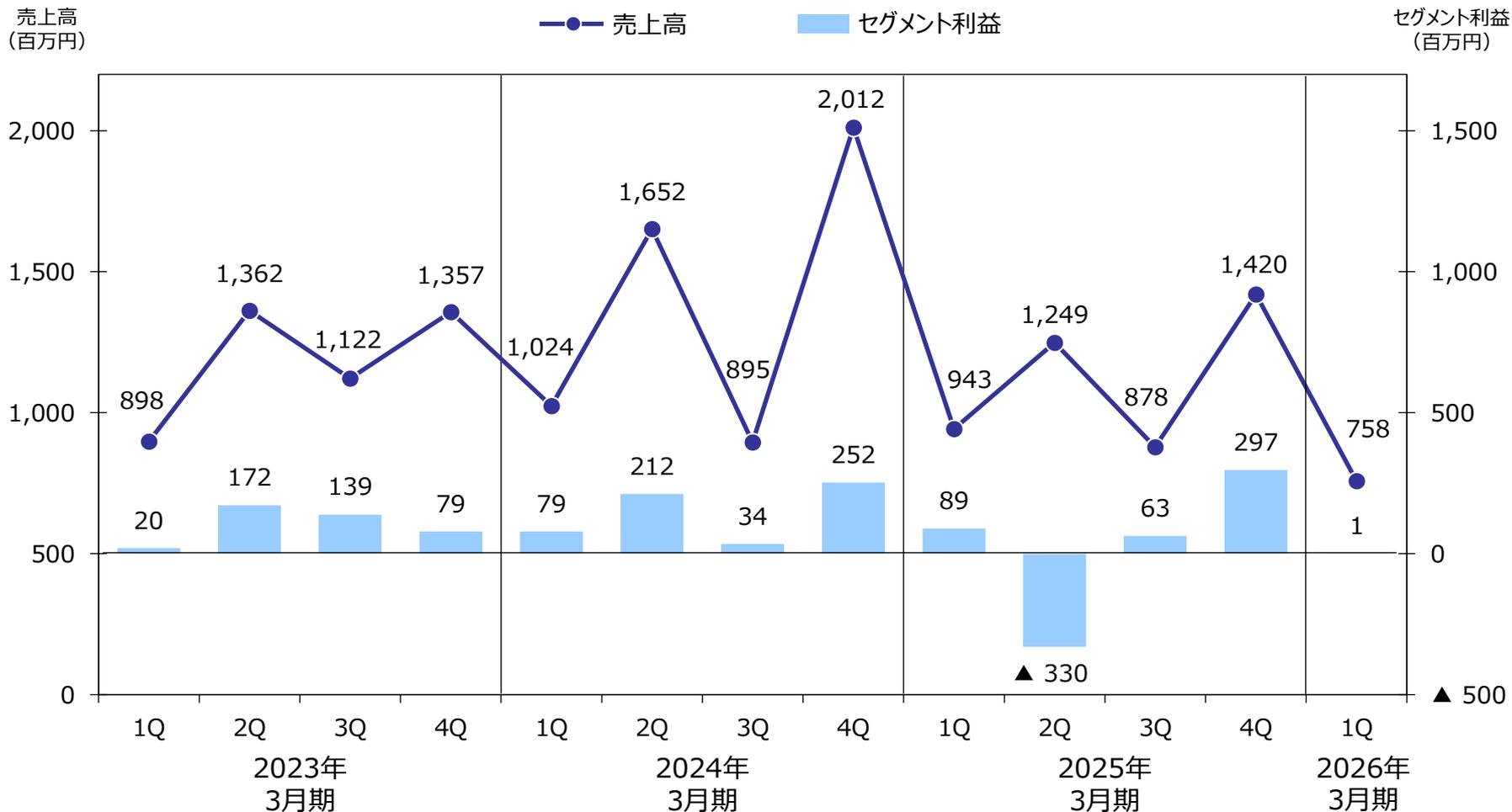


【機械事業】 製品別売上高の推移



機械事業（四半期業績）

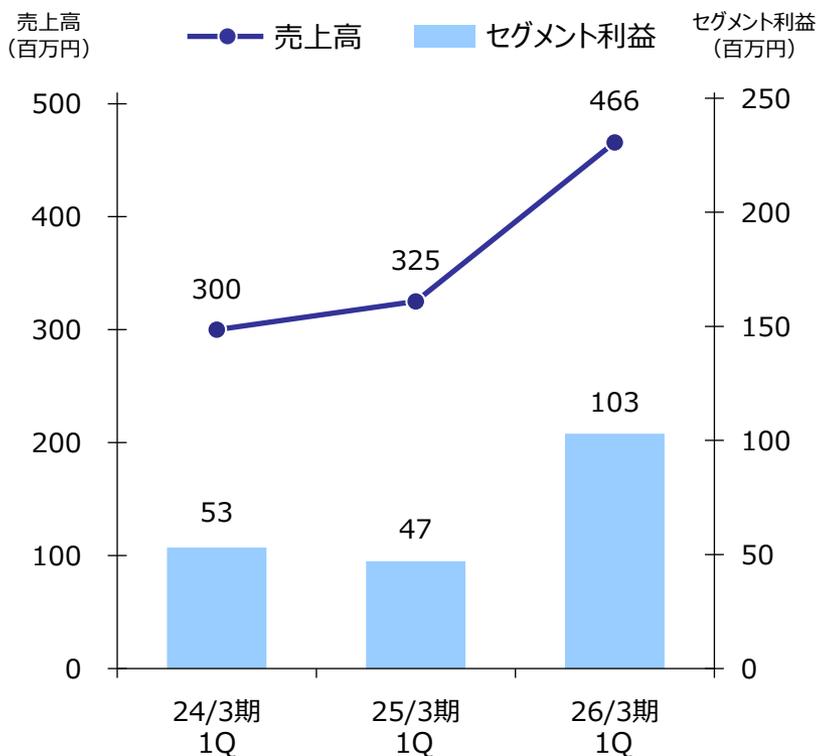
【機械事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



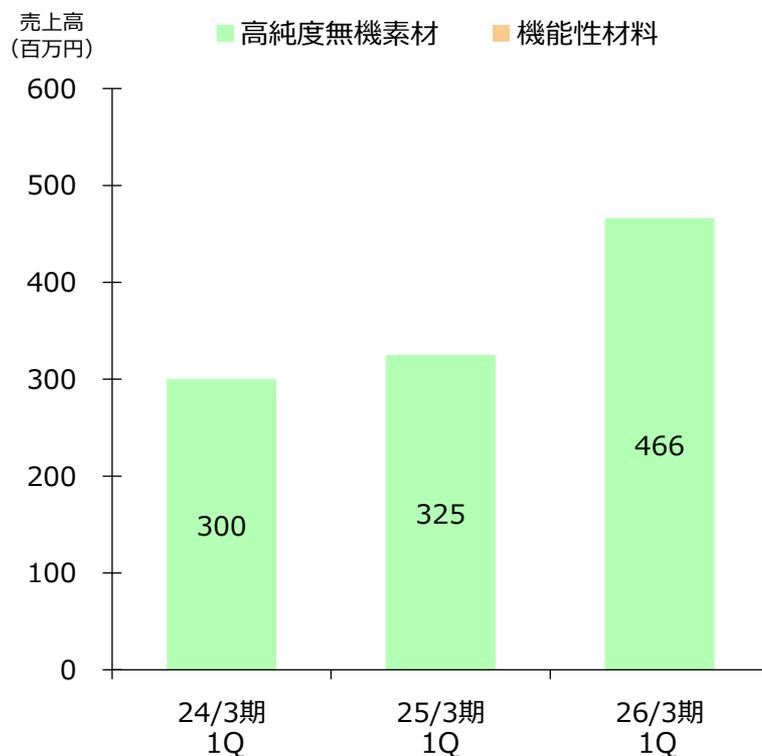
電子材料事業

- 化合物半導体向け高純度無機素材は、化合物半導体市況が堅調に推移し、赤燐やガリウム、インジウムが増収。
- 営業利益は、増収に伴い、115.3%の大幅増益。

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の推移

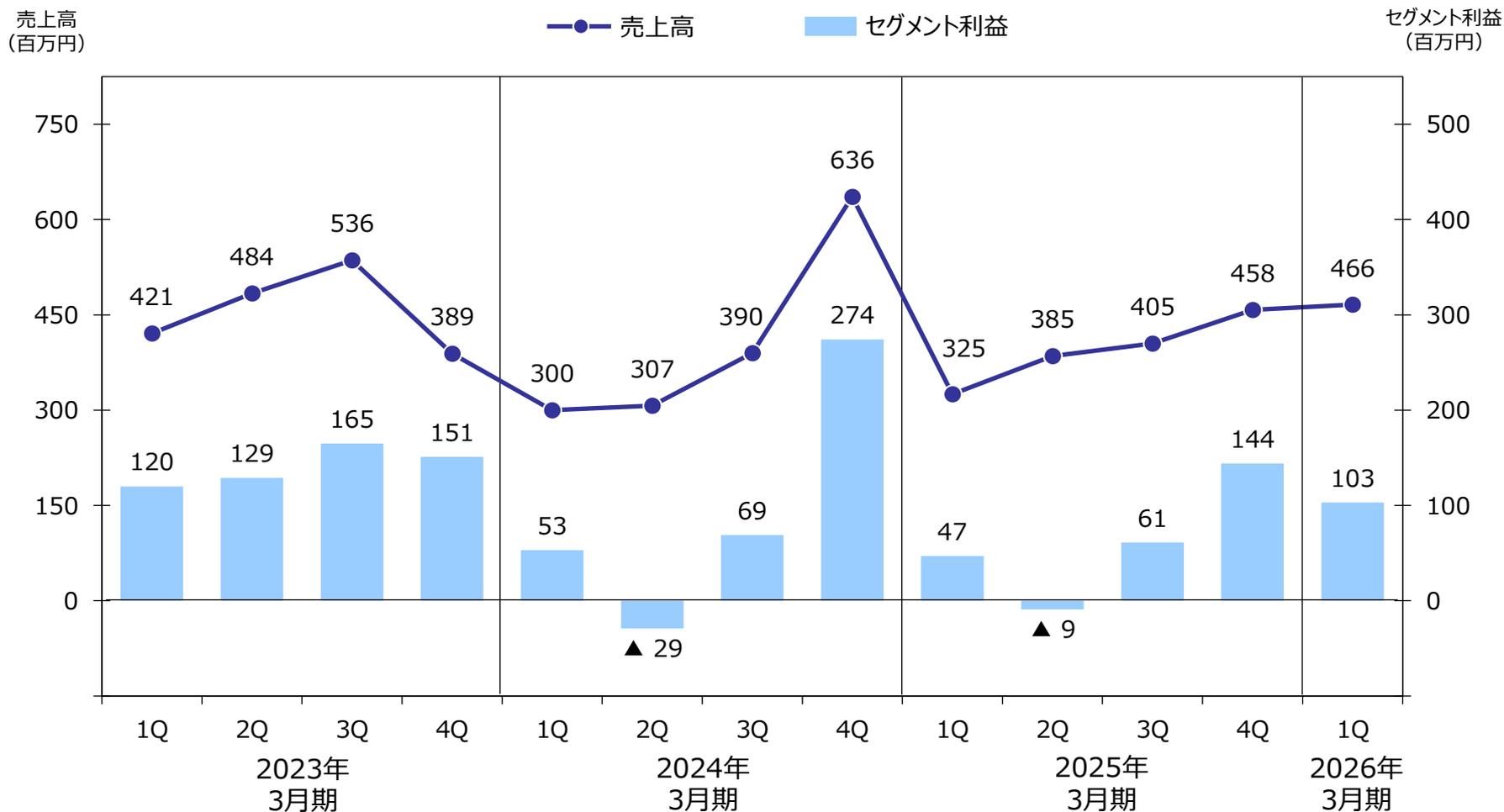


【電子材料事業】 製品別売上高の推移



電子材料事業（四半期業績）

【電子材料事業】 売上高とセグメント利益の四半期推移



損益計算書（連結）

（単位：百万円）

	2025/3期 第1四半期	2026/3期 第1四半期	増減	前年同期比
売上高	10,633	10,472	△ 161	△ 1.5%
売上原価	8,284	7,915	△ 368	△ 4.5%
販売費・一般管理費	1,219	1,238	18	1.5%
営業利益	1,129	1,317	188	16.7%
営業外収益	85	215	129	151.5%
営業外費用	84	79	△ 5	△ 6.2%
経常利益	1,130	1,454	323	28.7%
特別利益	—	—	—	—
特別損失	6	—	△ 6	—
税金等調整前四半期純利益	1,123	1,454	330	29.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	784	1,089	305	38.9%
(減価償却費)	469	436	△ 32	△ 7.0%

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

	2025/3月末	2025/6月末	増減
流動資産	23,581	23,005	△ 575
現金及び預金	5,054	4,641	△ 413
受取手形及び売掛金	11,665	10,986	△ 679
棚卸資産 ※	6,518	7,104	586
固定資産	22,257	22,714	457
有形固定資産	17,828	18,215	386
無形固定資産	45	43	△ 2
投資その他の資産	4,382	4,456	73
資産合計	45,838	45,720	△ 117
流動負債	11,004	11,460	455
支払手形及び買掛金	3,441	3,221	△ 220
短期借入金	4,342	4,708	365
固定負債	6,956	6,436	△ 519
長期借入金	3,996	3,490	△ 506
退職給付に係る負債	2,549	2,540	△ 8
純資産合計	27,877	27,823	△ 53
株主資本	26,088	26,614	526
その他の包括利益累計額	1,789	1,208	△ 580
<自己資本比率>	60.8%	60.9%	0.1%

※ 棚卸資産 = 商品及び製品 + 仕掛品 + 原材料及び貯蔵品

2026年3月期の業績予想

- 化成品事業は、半導体市況が引き続き回復基調にあるとの想定から、増収増益を見込む。
- 機械事業は、下水道関連向け掘進機は本体販売・レンタルともに回復を見込むものの、破碎関連機械やプラント販売の減収が想定され、売上は前期並み。利益は前期の棚卸資産評価損が見込まれないことから増益を見込む。
- 電子材料事業は、化合物半導体市況の回復は緩やかにとどまる想定から、売上は前期並み、利益は減益を見込む。

(単位：百万円)

	2025/3期	2026/3期予想	増減	前年同期比
売上高	45,421	49,200	3,778	8.3%
化成品事業	38,168	42,000	3,831	10.0%
機械事業	4,491	4,500	8	0.2%
電子材料事業	1,574	1,600	25	1.6%
その他の事業	1,186	1,100	△ 86	△ 7.3%
営業利益	4,736	5,100	363	7.7%
化成品事業	4,840	5,100	259	5.4%
機械事業	119	400	280	235.6%
電子材料事業	244	200	△ 44	△ 18.1%
その他の事業	764	700	△ 64	△ 8.4%
全社費用など	△ 1,232	△ 1,300	△ 67	5.5%
経常利益	4,602	4,900	297	6.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,131	3,300	168	5.4%
1株配当金	120円	128円	8円	5.8%

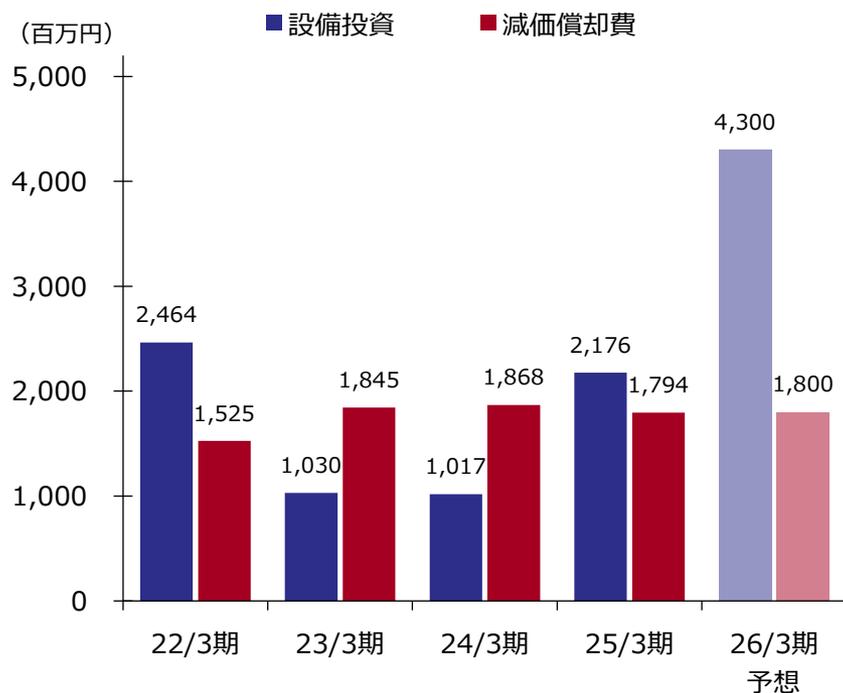
想定為替レート

145円/USD

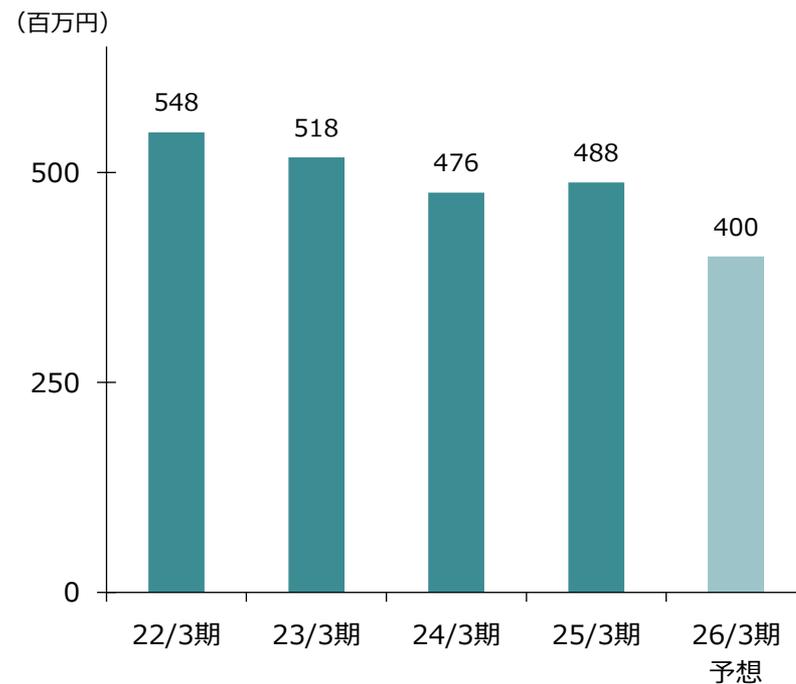
設備投資・減価償却費及び研究開発費の推移

- 設備投資は、化成品事業において、前期に引き続き、台湾子会社の半導体向け高純度リン酸の製造設備増設を実施（投資額 約30億円、台湾の生産能力4割アップ、2026年3月期に完工予定）。その他は主に維持更新投資が中心。
- 研究開発費は、主に開発センターにおける研究開発活動に係る費用。電子材料事業の放射性ヨウ素吸着剤等の研究開発は、2021年3月期から2025年3月期まで5年間実施し、一旦区切り。

設備投資・減価償却費



研究開発費



本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものをご理解下さい。

—IRに関する問い合わせ窓口—
ラサ工業株式会社 経理部
03-3258-1835